

ラオス仏像分類に関する報告

池 上 要 靖

池 田 健太郎

1.はじめに

ラオスの仏像については、日本国内では目立った先行研究の事例が見当たらない。国外における研究としては Carol Stratton, *Buddhist Sculpture of Northern Thailand*, Silkworm Books, Thailand, 2004. (Stratton [2004]) や Samkiart Lopetcharat, *Lao Buddha-The Image and Its History*, Siam International Book Company Ltd, Thailand, 2000. (Lopet [2000]) などが仏像の体系的研究成果を残している。しかし前者は北一東北タイ地域 (Lanner 文化圏) が主たるフィールドであり、後者は鑄造仏像が主であるため、今回の木彫仏を主とする研究は皆無といえる。それ故にこれまで身延山大学がラオス政府機関(情報文化省・考古学博物館局)と共同で行なってきた Luang Prabang 世界遺産地区における仏像の修復調査活動は、全てにわたり試行錯誤の連続であったといえよう。

2.調査の方法

2001 年 2 月から、2006 年 3 月まで計 10 回にわたり Luang Prabang 世界遺産地区内における 35 ヶ寺の仏像調査を行った。

予備調査の段階で、以下の事柄が問題点としてあげられた。

- 1、各寺院の須弥壇に祀られている仏像には、明らかに現代の寄進によるものがあること。
- 2、著名な寺院の主たる仏像には明らかにセメントで造られたものがあるこ

と。

- 3、上記2の仏像のスケールが大きすぎるため、若しくは固定されているために、計量できないということ。
- 4、仏像と台座については、台座のみ放置されているものがあるということ。
上記の点を考慮し、調査は以下のような基準で行った。

- 1、明らかに現代の寄進による仏像は調査の対象としない。
 - a ガラス製で、全て同一の姿であるもの。
 - b 鑄造仏像であっても、量販されているもの。
 - c セメント製のもの(但しフランス統治以前の写真に写っている仏像とセメント製とみられる仏像が同体である可能性が高いため、我々が用いる「セメント」という概念と同じであるかどうかは判然としない。成分分析を行う必要が指摘される)。
- 2、上記基準の1-cに該当するセメント仏像であっても、その寺院の主たる本尊である場合には調査対象とする。
- 3、計量できない仏像は、画像のみを採取する。
- 4、台座のみ放置されている場合は、銘文などがある場合を除いて、調査対象としない。

このような調査基準により、資料編に附されている調査カードに、寺院毎に仏像1体ずつを撮影し、仏像本体の重量、高、幅、奥行き、台座の重量、高、幅、奥行き(但し、分離できる場合のみ。分離できない場合は、台座を含めた重量を計量し、台座の重量を示す欄は「計測不可」と記した。)及び材質と破損の程度を調査した。その際に寺院の略称と通し番号を仏像1体毎に附し、個体の識別番号とした。

調査の結果、全 35 ケ寺の調査対象仏像は 1174 体にのぼった。調査結果をまとめるに当り、寺院毎の集計はもとより、仏像の種類毎に区分することを試みた。ラオスの仏像は Khmer や Lanner、Ayuttaya、Sukhotthai、Buruma (Myammer) 等の文化的影響を受けているという一般の評価であるが、Luang Prabang という Lan xang 王国の首都に残る仏像を網羅して体系的に調査することによって、一般的な評価に対する何かしらの提言をすることも可能であると考えられる。仏像群を体系的に捉える魁として「形態の分類」を行った。合わせて照覧していただき、高配を賜れば幸いである。

世界遺産地区内寺院で調査対象となった仏像群は、その数 1 千体を超えるが、その形態は実に多種多様であった。これらの仏像群の調査データを、今後の調査研究に生かしていく為には、一定の基準 (Standard) を設けて分類・整理していくことが不可欠である。その基準の確立を試みようというのが、本稿の目的である。

3. 基準作成の方法

先に述べたように、ラオスの仏像(特に木彫)の分類についての先行研究は、殆ど確認されていない。したがって、ラオス仏像の基準作成・分類整理するにあたり、直接参考にできるものはなかった。

ラオスで信仰されている仏教は上座部仏教である。そのため仏像は形態の種類を問わず、その多くが釈迦(仏陀)像であり、“Pra (Pha) ”、または “Buddha” と呼ばれている。

Luang Prabang 世界遺産地区内寺院で、身延山大学によって調査されデータベース化された仏像群は、35 ケ寺・1174 体に上る。まずこの調査データを、仏像の外形(「形態」と呼ぶ)及び仏像の印契に表される造像の目的別に分類・整理してゆくことで、ラオス北部域における木彫像群を中心とする仏像の基準

を作成する。

4. 仏像の形態による分類

調査した仏像群は、その形態的特徴により次の4つに大別することができる。

- 1、立像・・・立ち姿を表した仏像。直立像や遊行像。
- 2、坐像・・・座っている姿を表した仏像。結跏趺坐・半跏趺坐・正座・椅座等が見られる。代表的な形態はSana-man及びSa-ma-thi。全調査仏像中、最も多く見られる姿である。
- 3、涅槃像・・・横になっている姿を表した仏像。
- 4、その他・・・以上のどれにも当てはまらないもの。仏具や動物像・神像・仏像の一部分等。また名称不明・欠番の像も、姿形問わずこれに含む。

上記の形態上の特徴に従って、調査した仏像群を個々に分類すると、次の表①に示される数となる。

表①

形	態	数 (体)
立	像	490
坐	像	637
涅槃	像	2
その他		45
合計		1174

5. 仏像の種類

形態別に分けた上で、造像の目的による分類を行った。「造像の目的」とは印契などによって表されている造像の願いを意味し、それぞれの仏像の名称にあたる。例えば、立像の中の Kho-Fonh（「祈雨」を表現）といった具合である。しかし、印契は日本のそれとは意味合いや印契そのものが大きく異なっている。その為、現在は判然としないものもあり、それらは表中に？を附してある。印契等により分類される仏像をあげると次頁表②のようになる（注：仏像・神像以外の調査対象は表中より除いてある）。

表②

番 号	名 称	意 味
1-1	Kho-Fonh	祈雨
1-2	Hamenhat	厄除け
1-3	Oum-Bat	托鉢
1-4	Thavined	成道後の7日間の瞑想
1-5	Ramphueng	Abhidharma に関する熟考（悟り）
1-6	A-none	合掌印 Wai
1-7	Riira	遊行
1-8	Hanpun	？
2-1	Sana-man	降魔（接地印）
2-2	Sa-ma-thi	禪定印
2-3	Ou-Bath	？
2-4	Ma-rai	合掌印 Wai
2-5	Thed-sa-naa	与願印？

2-6	Pha-ka-chyai	?
2-7	Thesanan	?
3-1	Say-nhat	涅槃
4-6	Thepphanom	合掌（神像）

6.形態の中のタイプ分け

形態の中でも、さらに多様性が見られるものはタイプ別に分け、それぞれのタイプ別名称及び数を示した。タイプには形態の別なく見られるものと、その形態独自のものとがある。タイプ別の説明は後述する。

7.形態別の名称等

それぞれの姿形の中の形態別名称・数・説明等は次のとおりである。なお特に説明のない限りは、基本的に釈迦像である。

1、立像 490 体

両下肢を揃えて立つものを立像に分類した。

・1-1 Kho-Fonh 313 体	a.Standard	286 体
	b.Som-khouan	18 体
	c.Pa-mou	9 体

両上肢を体側に下げ、手は指先を揃える。両下肢を揃えて立つ。“雨を呼ぶ”仏陀であると伝えられている。

・1-2 Hamenhat 133 体	a.Standard	110 体
	b.Som-khouan	23 体

両上肢は上腕を下げ、肘を直角に曲げ前腕を前面に突き出し、掌を正面に向けている。手の指先は揃っている。両下肢を揃えて立つ。“悪事を防ぐ” 仏陀であると伝えられている。

- | | | | |
|---------------|-----|--------------|-----|
| ・ 1-3 Oum-Bat | 6 体 | a.Standard | 6 体 |
| | | b.Som-khouan | 1 体 |

両上肢で鉢を抱えている。両下肢を揃えて立つ。“托鉢をする” 仏陀であると考えられる。

- | | | | |
|----------------|-----|------------|-----|
| ・ 1-4 Thavined | 4 体 | a.Standard | 2 体 |
| | | b.Pa-mou | 2 体 |

両上肢を体前面に下げ、掌は腰の前で重ねている。両下肢を揃えて立つ。

- ・ 1-5 Ramphueng 2 体

両上肢は上腕を下げ、肘を曲げ前腕及び掌は胸部前面にて重ねている。両下肢を揃えて立つ。

- ・ 1-6 A-none 2 体

合掌する仏弟子（比丘像 Bhikkhu）。両下肢を揃えて立つ。本来は釈迦仏像群とは分けて考えられるべき仏弟子像であるが、立像という形態を優先させるために、ここに配した。

- | | | | |
|-------------|------|-----------------------|-----|
| ・ 1-7 Riira | 29 体 | a.Standard | 2 体 |
| | | b.Kho-Fonh | 6 体 |
| | | c.Kho-Fonh・Som-khouan | 3 体 |

d.Som-khouan	2体
e.Standard 2	6体
f.Ham-sam・Som-khouan	2体
g.Ham-sam	8体

釈迦が遊行する様を表している。遊行（ゆぎょう）とは、布教や修行のために各地を巡り歩くことで、歩行する姿として表される。このような仏像を遊行像といい、隣国タイの仏像には数多く見られる形である。

両上肢のうちどちらか片方の前腕を前に突き出し、掌を正面に向けている姿である。もう一方の腕は、体側に下げている。いずれの指先も揃っている。突き出す腕・下げる腕が左右どちらであるか決まっているとは考えられず、左右いずれの作例も見られる。また Kho-Fonh の如く、両上肢共に体側に下げている作例も見られる。

両下肢は歩行状態を表している。片足は地面に着き、もう一方の足は地面を蹴りつつあるところである。これも上肢同様左右いずれの作例も見られる。また他の立像の如く、両下肢を揃えて立つ作例も見られる。

両上肢・両下肢共、左右どちらの手足にも動きの見られる作例がある一方で、両上肢が Kho-Fonh と同様であったり、両下肢が他の立像同様であるものが存在する。これらに Som-khouan タイプ（宝冠仏）を加えると、同じ Riira に分類される形態とはいえ、非常に変化に富む形態だといえよう。これにより、両上肢・両下肢に Riira の特徴を有する像はもとより、前述のようにどちらか一方のみに特徴があるだけの作例も、今回は Riira として分類した。しかし調査段階では、後者を一時別種の仏像（Ham-sam）として認識していた時期もあったことを付記しておく。

・1-8 Hanpun 1体

1-4 の Thavined に近似であるが、腰の前で重ねられた掌が開いた形態。調査対象の 2-110 はタイより招来されたと考えられる。

2、坐像 637 体

全調査仏像中、最も多く見られる姿が坐像である。結跏趺坐・半跏趺坐・正座（爪先立ちの日本座）・椅座などの形が見られる。

・2-1 Sana-man 435 体

a.Standard 423 体

b.Som-khouan 6 体

c.Pa-mou 2 体

d.Nagua 1 体

坐像の中でも大半を占める形態が、Sana-man である。降魔印（接地印）の形をとる。基本的には、右足を左足の膝の上に載せる半跏趺坐の形で座し、左手は膝上に五指を伸ばし、掌を上にして置く。右手は膝前に伸ばし、指先で大地に触れる。“災厄（悪魔）を避ける” 仏陀の意味を持つといわれる。

・2-2 Sa-ma-thi 178 体

a.Standard 160 体

b.Som-khouan 13 体

c.Pa-mou 2 体

d.Nagua 3 体

Sana-man に次いで多く見られる坐像。禪定印の形をとる。座する様は Sana-man 同様、両手は掌を上にし、重ねて膝上に置く。“冥想する” 仏陀であるといわれる。

・2-3 Ou-Bath 19 体	a.Standard	3 体
	b.Sana-man・Som-khouan	1 体
	c.Ma-rai1（正座）	4 体
	d.Ma-rai2（正座・合掌）	4 体
	e.Chair（椅座）	3 体
	f.Chair・Hands（椅座・両手）	1 体
	g.Hands（両手）	3 体

仏弟子（Bhikkhu）。手に環状の持物を有する。既に述べた 1-6 A-none と同じく、本来は、釈迦仏像群とは分けて考えるべき像であろうが、像の形態が「膝を折っている」という点から、正座（つま先立ち）、椅座の仏弟子像をここに分類した。後述する 3-4 Ma-rai・3-6 Pha-ka-chyai もこれと同様である。

・2-4 Ma-rai 1 体

仏弟子（Bhikkhu）だが、手に環状の持物は無い。持物の欠落した Ou-Bath であるとも考えられる。1 体のみの確認。

・2-5 Thed-sa-naa 1 体

半跏趺坐で座している。右手は施無畏印であり、左手は与願印のように見えるが、手の甲が外側を向いており、接地印のようにも見える。1 体のみの確認。

・2-6 Pha-ka-chyai 2 体

仏弟子（Bhikkhu）。肥満体であり、大きな腹を抱え座している。調査仏像 2 体中、1 体は半跏趺坐で、別の 1 体は結跏趺坐である。日本の布袋像、もしくは中国の弥勒像に近似している。

・2-7 Thesanan 1体

右手のみ掌を外側に向けた半跏趺坐の坐像。右手以外は Sana-man・Sa-ma-thi と同様である。1体のみ調査（未調査仏像でも1体確認）。

3、涅槃像 2体

・3-1 Say-nhat 2体

釈迦入滅を表した形である。

4 I、その他 I 28体

・4 I-1 Lama-nha-naa 2体

『ラーマーヤナ物語』を表した大型の衝立。

・4 I-2 Pha-bott 16体

衝立若しくは額。千体仏のレリーフが多いが、遊行仏を表したものもある。

・4 I-3 Kia 1体

椅子。1体（脚）のみの確認。調査対象20-65には、文字も見られる。

・4 I-4 Che-dii 2体

仏舍利容器ではないかと考えられる小型の仏塔。

・4 I-5 Gaa-saang 2体

象の牙の形を表し、いくつかの仏像が彫刻されている。

・4 I-6 Thepphanom 1 体

神像。1 体のみの確認。

・4 I-7 Animal 2 体

象と馬、それぞれ 1 体が確認されている。

・4 I-8 Hao-Tiang 1 体

Nagua を表した衝立だと考えられる。本体と台座より成る。調査対象 20-68 の 1 体のみの確認。

・4 I-9 Sounpa-toukhonh 1 体

門を表していると考えられる。中央部に Riira と思われる仏像の足のみ残る。さらにその左右にも穴があり、それぞれに仏像が存在した可能性もある。本体と台座より成る。

4 II、その他 II 17 体（件）

・4 II-1 仏頭 5 体

仏像の頭部のみのもの。

・4 II-2 顔・台座 1 件

欠落した顔面（部分）と台座が一緒に置かれていたもの。

・4 II-3 台座 1 件

仏像本体が確認できない、台座のみのもの。調査は1件のみだが、他にも多く存在する。

・4Ⅱ-4 手 2件

欠落した手または腕の部分のみのもの。

・4Ⅱ-5 足 1体

欠落した足のみのもの。

・4Ⅱ-6 欠番 2体

ワット・セーンにおいて、他の寺院より預かっているという仏像が2体判明した。既に調査後であったが当該寺の仏像ではない為、ナンバリングを抹消したもの。

・4Ⅱ-7 不明 5体

立像であるが、両腕が欠落している為に名称の判断がつかかねるもの等5体を不明とした。

8.タイプ別の名称について

調査した仏像群は、1つの形態の中でも様々な特徴・変化が見られた。例えば Rūra と Ou-Bath はそれぞれ 29 体と 19 体であるが、それぞれが 7 タイプにも分けられる（別項①、②参照）。また、Pha-ka-chyai のように 2 体のみの調査対象であっても、それぞれが別のタイプに分けられるものもあった。

1 つの形態で複数タイプに分ける必要が生じた場合は、まずその形態で最も普遍的であろう形を **Standard** として決定した。

タイプには形態問わずにみられるものと、その形態独自のものとがある。その名称及び説明は次のとおりである。

1、形態を問わずにみられる像

- ・ **Standard** その形態で最も普遍的（基本形）であろう形。但し、その形態の中での最多数を占めるとは限らない。

次の3タイプのみ、目録に便宜上の記号を付記している。

- ・ **Som-khouan** 記号◆。宝冠仏。
- ・ **Pa-mou** 記号■。同形態の仏像が1つの台座に2体以上並列した状態であるもの。この場合、仏像は何体であっても調査上は1体としてカウントした。
- ・ **Nagua** 記号●。仏像の光背が **Nagua** で表されているもの。

これらは仏像の形態、造像の目的に付随する項目であり、仏像それ自体の意義は変わらない。その為、目録上では記号で表した。

2、形態独特のもの

次の2形態には、独自のタイプがある。なお、この2形態には形態を問わないタイプも存在するが、ここでは省略する。

- ・ 2-1 **Riira** **b.Kho-Fonh**
 c.Kho-Fonh・Som-khouan

f.Ham-sam・Som-khouan

g.Ham-sam

b 及び c は両腕を Kho-Fonh 同様体側に沿って下ろした状態である。c は b に加えて Som-khouan（宝冠仏）の特徴を有する。f 及び g は、立像と同様に両足を揃えて立っている状態である。f は Som-khouan の特徴を有する。

・3-3 Ou-Bath

b.Sana-man・Som-khouan

c.Ma-rai1

d.Ma-rai2

e.Chair

f.Chair・Hands

g.Hands

b は僧形である以外は Sana-man と同様である（接地印）。加えて Som-khouan の特徴を有する。

c 及び d は Ma-rai という形態によく似たものである（相違点は環状の持物の有無）。共に僧形で坐法は正座（爪先立ち）であるが、c は両手に持物を有し、d の両手は合掌し、その上で持物を有する。

e 及び f は台もしくは椅子に腰掛ける形（椅座）である。Ou-Bath は全て環状の持物を有するが、f 及び g は持物及びその持ち方が他とは異なった形である。通常は環状の持物の持ち手は片手で、もう片方の手を添えて持っているが、f 及び g のそれは両手で、左右別々に離れた位置で環状の持物から伸びた 2 本の柄を持つ形である。なお、f は e と g 双方の特徴を持つ。

9.まとめ

Luang Prabang の世界遺産地区内寺院に安置されている仏像群の形態上の

データ採取の初期目的はほぼ達成されてと言ってよいだろう。

域内全 35 ヶ寺の 1174 体に及ぶ仏像の個体毎のデータは、像の正面と側面及び背面（ただし撮影困難な仏像は正面と側面のみを撮影）を画像として、名称と材質、像の高さ、幅、奥行き、重量、さらに台座が分離できる場合は台座の高さ、幅、奥行き、重量も合わせて数値データとして採取した。また、仏像に破損のある場合は、破損の程度を 0~5 までの 6 段階に分けて附した。データ採取の際に、仏像の個体番号を背面若しくは仏足の裏などに寺院の略号とともに個体番号を付けた。その番号に従って、正面から撮影した画像とを寺院別にまとめたデータが資料編（DVD にて添付）である。参照されたい。

調査を進めていくうちに、1174 体の仏像は、当初の予想よりも、はるかに形態上の変化が多いことが明らかになった。反面、仏像自体に造像の年代を示す銘文や伝承が残されているものは、全体の 9 パーセントに満たなかった。そのため、Luang Prabang 世界遺産域内の仏像のデータに何らかの基準を設け、整理分類する必要が生じた。整理分類のための基準作りは、①形態、②造像の目的の 2 点によることになった。それもあまりに細分化する（例えば、耳や鼻、口、眼、螺髪などの造形の違いなど）と、「群」としての特徴を逆に見落としてしまう可能性があるので、極力大枠に留めた。その大枠の形態とは、①立像、②座像、③涅槃像、④その他である（表①参照）。その為、本来釈迦像とは区別されるべき仏弟子像も、立像であれば同じ群として扱っていることには留意を要する。もう一つの基準は、造像の目的である。「造像の目的」とは、仏像がラオスの人々のどのような願いによって作られたかを意味する。それを端的に示すものとして、「印契（いんぎょう）、wai¹」がある。（表②参照）Laos の仏像の印契は、日本の仏像に見られる印契との類似形は少なく、接地印と禪定印が

¹ Sanskrit では mudra.

共通するのみであろう。これらの枠組みによる基準で 1174 体の仏像を分類した結果が‘A Report Regarding the Classification of Buddhist Statues in Lao PDR.’である。この枠組みの設定が果たして妥当なものかどうか、今後諸学兄の教示により、より精密になることを願うものである。

上記の次第により、1174 体の仏像の分類を終えて、以下の点が指摘される。

- (1) 寺院に放置されている仏像の殆どは木彫であること。
- (2) 像の表情や姿にはそれぞれ個性があること。
- (3) 造像の年代、造像主などを明確にできるような仏像が少ないこと。
- (4) 像には釈迦仏以外のモチーフを持っているものがあること。
- (5) 印契の意味が独自を有しているものがあること。
- (6) 修復された痕跡を有する仏像がほとんどないこと。

(1) については、各寺院には本来鑄造仏が安置されていたのかもしれない。現在、The National Museum of Royal Palace in Luang Prabang（王宮博物館）に陳列されている青銅仏の何体かは、寺院の主尊として祀られていた可能性も否定できない。Laos には木材資源が豊富にあり、材料が入手しやすい木材を加工して造像が為されたであろうことは想像に難くない。逆説的に考えれば、鑄造仏やエメラルド仏に代表されるような輝石の類の像が珍重されたので、それらは寺院の主尊となり、現在王宮博物館に収蔵されているとも言えるだろう。それに対して、木彫像は、寄進者によるものがほとんどであったので、寺院の主尊足りえなかったと考えることも存外的を外れてはいないだろう。

(2) は、仏像の顔や手足などに個性的な特徴を有するものが多いことである。しかし、それが造像の発達段階として時間軸上で捉えられるものであるか、それとも地域的伝播の影響による空間的な変性によるものであるのか、これらの両方にオリジナルな創作が加わったものなのか、全く現段階では確たる何も

のない状態である。

(3) は (2) を具体的に探る手掛かりとなる要素を探ろうとするものであるが、これも銘文などを残した個体の絶対数の少なさにおいて困難が予想される。

(4) は釈迦像以外にも仏弟子 (Bhikkhu)、動物などの像が安置されていることであるが、釈迦像と同じ壇の上で礼拝の対象となっていることは他の上座仏教圏では稀である。

(5) は仏像の印契に降雨を祈願する印や、悪い事柄を防ぐ印など、独特の発達を為したものが多い。実は、印の意味については、判然としないものもあり、さらなる聞き取り調査等が必要となろう。

Luang Prabang の世界遺産地区にある 35 の寺院の仏像は、制作年代が特定できないものが非常に多い。制作年代の決定は、造像時に附される銘文や作者の名前などから判別される場合と、仏像の細部に施された意匠の統計的なデータによって得られる場合とがある。残念なことに、今回の調査対象となった 1174 体のうち、銘文が附されたいた仏像は 143 体 (12%) しかなかった。今後は、これら銘文のある仏像の形態的な特徴から、残りの仏像と比較し、さらに他の地域の仏像群の形態的な特徴とを合わせて考慮しつつ、体系化を図っていくことが必須である。

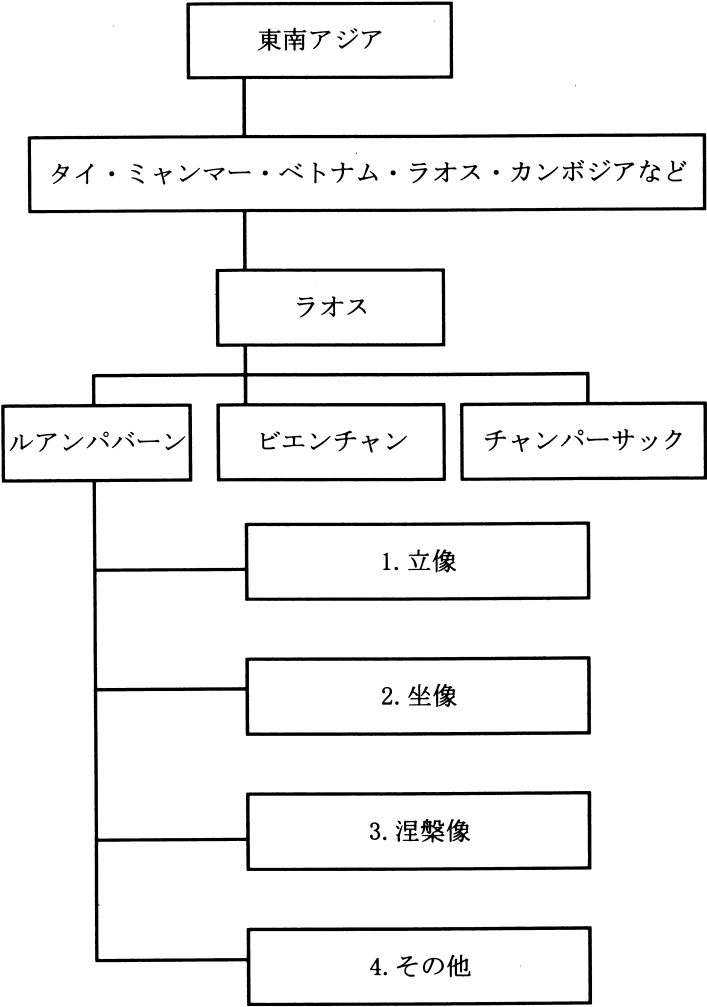
次頁以降には、調査によって得られたデータを整理し分類したチャート、そして分類した仏像（立像・坐像・涅槃像・その他）の名称や特徴に関する解説を施した。解説中の（ ）内にはその仏像の安置されている寺院番号（129 頁「寺院調査結果表」を参照のこと）とその仏像の個体番号が示されている。また、仏像の形態に関する研究がある場合には、その文献資料も付記したので参照していただきたい。「寺院調査結果表」には、通し番号が付されている。この番号は、Luang Prabang 地区の世界遺産指定域にある寺院に、UNESCO が付

した番号に基づいている。寺院の略号は、情報文化省考古学局の Bounheung 氏（現在は Viengtiane 国立博物館副館長）により付けられたものである。

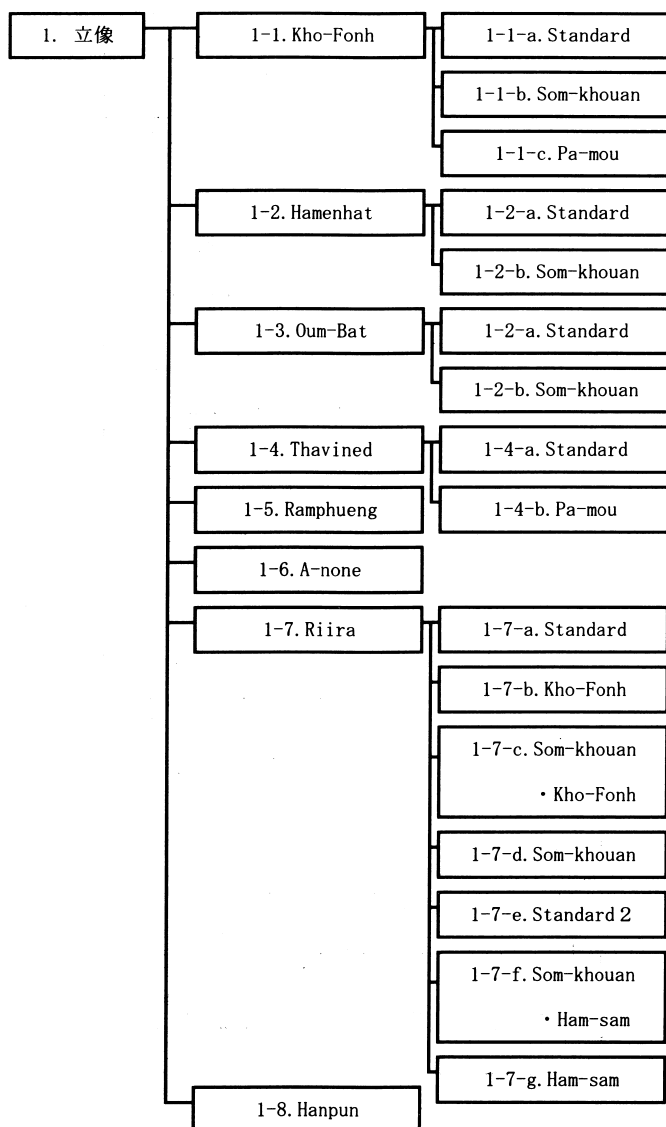
特に、仏像群の中で、我々には馴染みの少ない仏像である Riira と Ou-Bath については詳細な分類表も合わせて掲載した。その他には、調査に使用した仏像調査カードと参考文献を挙げた。

調査そのものが完全に終了したわけではなく、撮影やデータ収集時における不備な点など、まだまだ不足している部分があることは否めないが、それらは今後の課題とさせていただきたい。

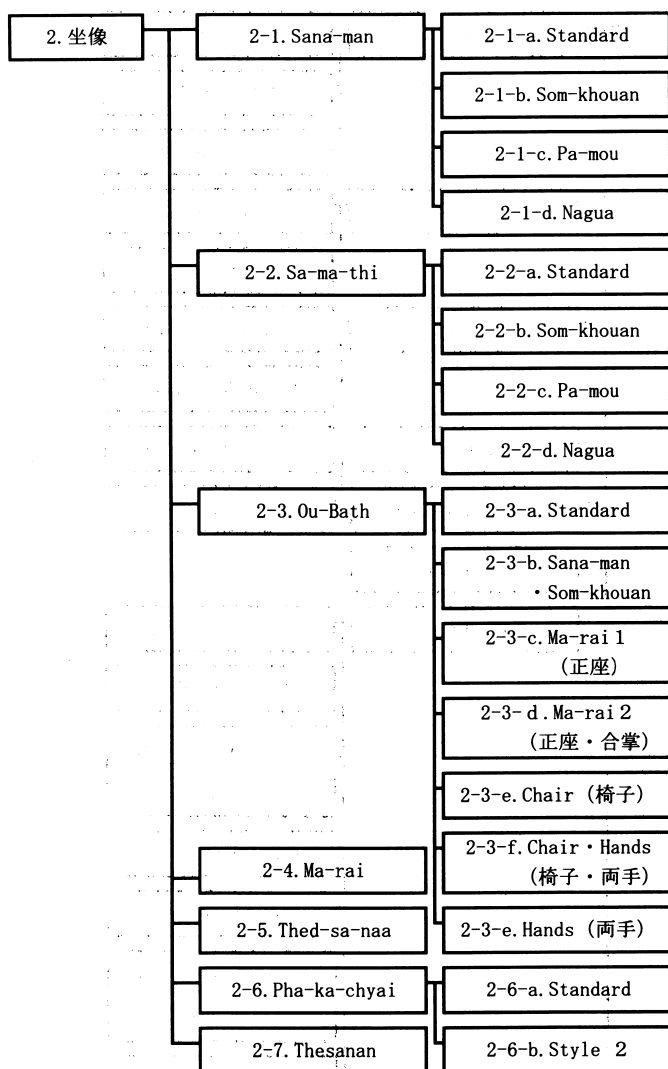
ルアンパバーン仏像分類チャート図



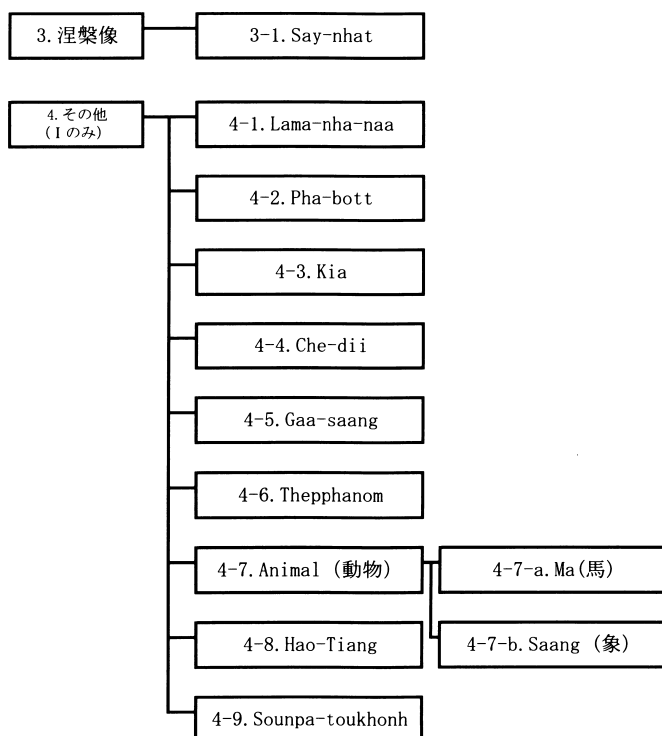
ラオス仏像分類に関する報告（池上・池田）



ラオス仏像分類に関する報告（池上・池田）



ラオス仏像分類に関する報告（池上・池田）

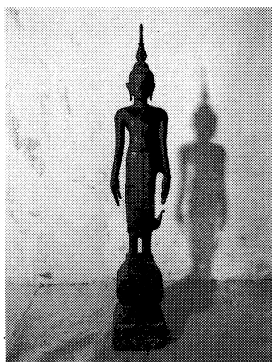


1. 立像

1-1. Kho-Fonh

1-1-a. Standard style

両腕を体側に下げた立像を Kho-Fonh という。“雨を呼ぶ” 仏陀であるといわれる。(9-42) Rattana[2000]-p45 Stratton[2004]-p86



前面

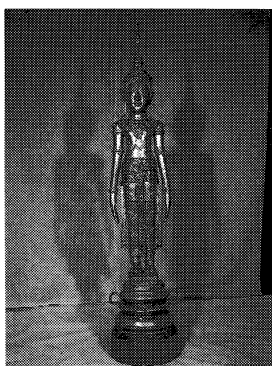


右側面

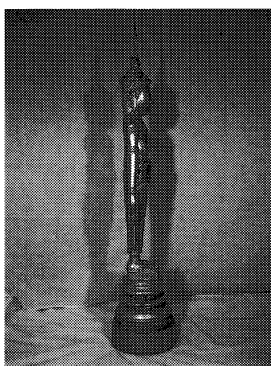
1-1-b. Crowned “Som-khouan” style

Kho-Fonh の宝冠仏。(7-24) Rattana[2000]-p45 Stratton[2004]-p86

宝冠仏を、Som-khouan という。Rattana[2000]-p74



前面



右側面

1-1-c. “Pa-mou” style

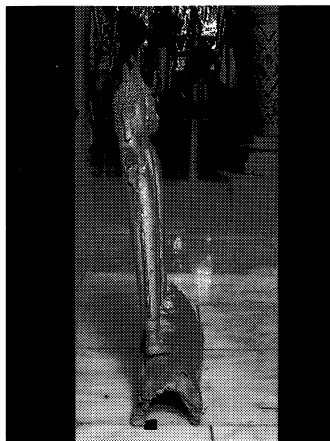
台座の上に同一形体の仏像が並列しているものを Pa-mou という。

写真の Pa-mou では、複数の Kho-Fonh が同一台座上に並列している。

(2-64) Rattana[2000]-p45 Stratton[2004]-p86.



前面



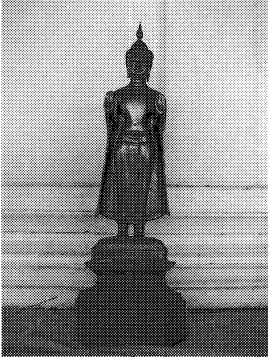
右側面

1-2. Hamenhat

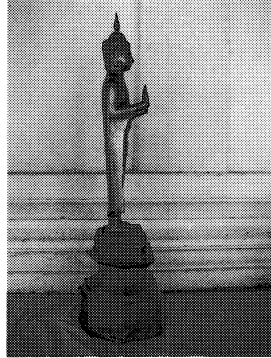
1-2-a. Standard style

両腕を前方に突き出し、両掌を前方に向けた立像を Hamenhat という。“悪い事を止めさせる” という意味があるといわれる。

(15-5) Rattana[2000]-p189 Stratton[2004]- p85



前面



右側面

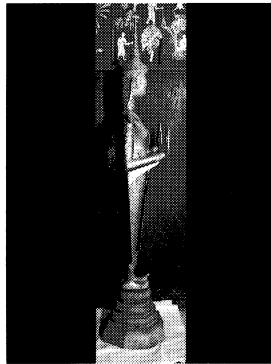
1-2-b. “Som-khouan” style

Hamenhat の宝冠仏である。(15-5) a-p189 b- p85

宝冠仏を Som-khouan という。 Rattana[2000]-p74



前面

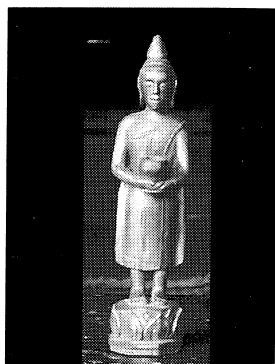


右側面

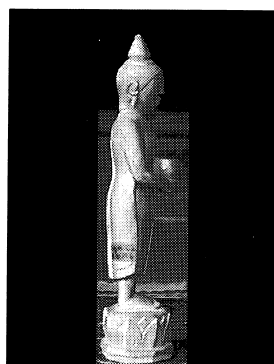
1-3. Oum-Bat

1-3-a. Standard style

托鉢をする仏陀を Oum-Bat という。(15-24) Rattana[2000]-p72



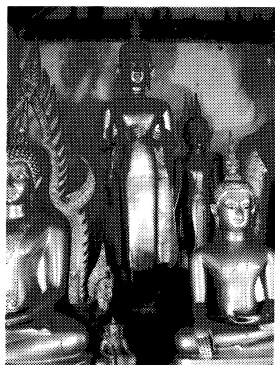
前面



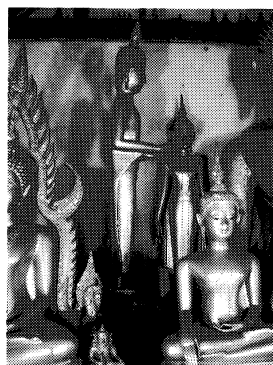
右側面

1-3-a. Standard style

Oum-Bat で、鉢を亡失しているもの。(15-24) Rattana[2000]-p72



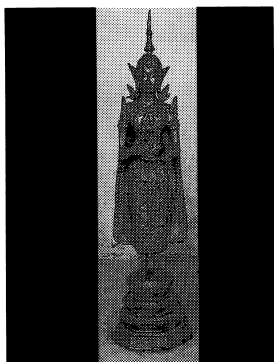
前面



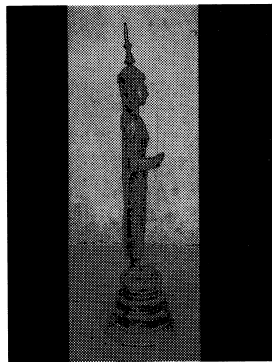
右側面

1-3-b. “Som-khouan” style

宝冠仏。鉢は亡失している。(15-24) Rattana[2000]-p72 Rattana[2000]-p74.



前面



右側面

1-4. Thavined

1-4-a. Standard style

両掌を腰部前面にて重ね合わせた立像。(34-18) Rattana[2000]-p72



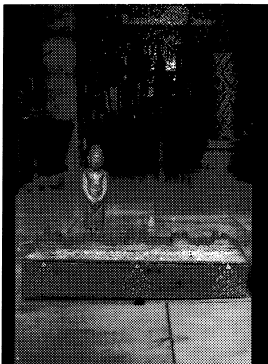
前面



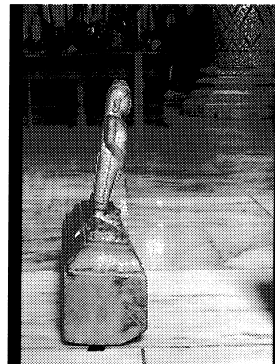
右側面

1-4-b. “Pa-mou” style

台座の上に同一形体の仏像が並列しているものを Pa-mou という。
写真の Pa-mou では、現状 1 体の Thavined が現存しているのみであるが、
かつては複数体が並列したものと推測される。(2-72) Rattana[2000]-p72



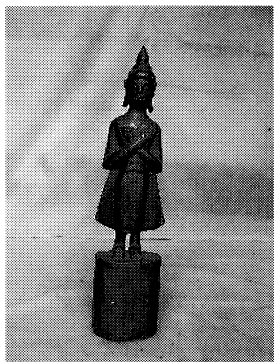
前面



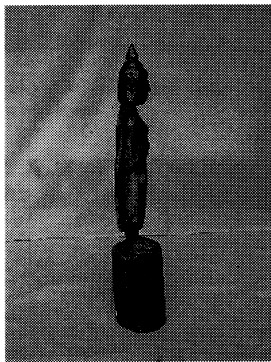
右側面

1-5.Ramphueng

胸部前面にて、右腕と左腕を重ね合わせている立像である。(34-5)



前面



右側面

1-6. A-none

合唱印をとる比丘立像。 Rattana[2000]-p319



前面

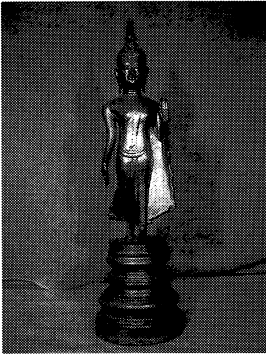


右側面

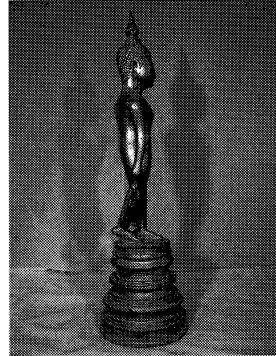
1-7. Riira

1-7-a. Standard style

遊行像(7-22) Rattana[2000]p41



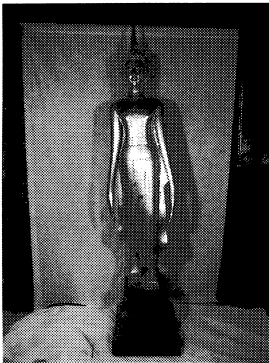
前面



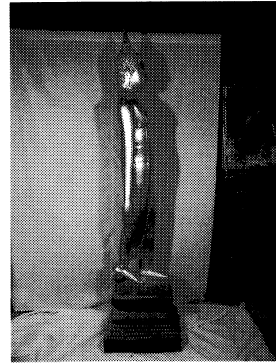
右側面

1-7-b. Kho-Fonh style

Kho-Fonh の特徴（両腕体側下げ）をもつ遊行像(7-10) Rattana[2000]p71



前面



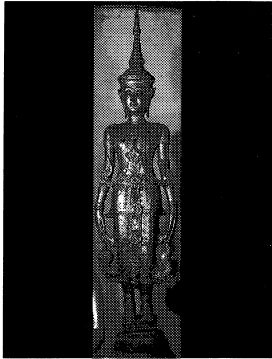
右側面

1-7-c. Kho-Fonh and “Som-khouan” style

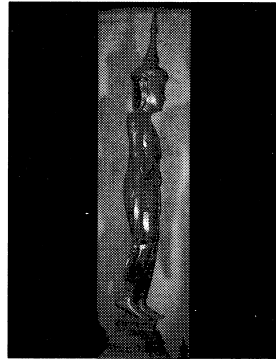
Kho-Fonh の特徴（両腕体側下げ）をもつ遊行像。

(15-36) Rattana[2000]p71

Som-khouan は宝冠仏の意である。 Rattana[2000]p74



前面

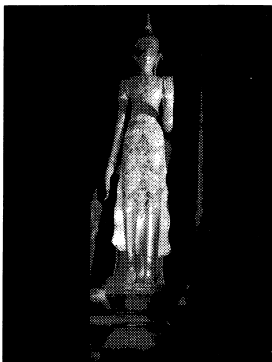


右側面

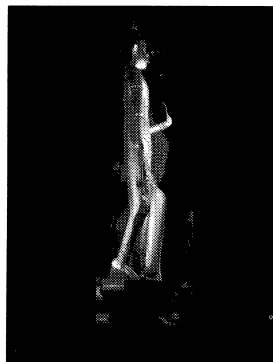
1-7-d. Standard “Som-khouan” style

遊行像 (13-46) Rattana[2000]p71

Som-khouan は宝冠仏の意である。 Rattana[2000]p74



前面



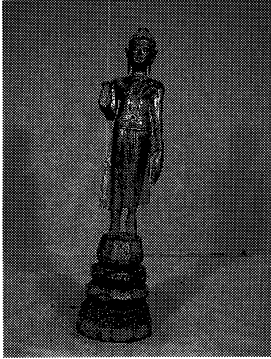
右側面

1-7-e Standard style 2

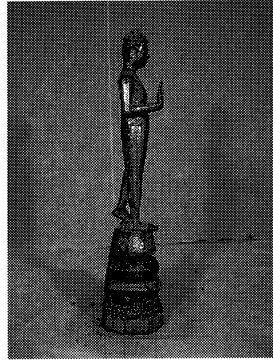
遊行像で、右手を上げているタイプ（Standardは左手）。(7-35)

Rattana[2000]-p71

Som-khouan は宝冠仏の意である。ap74



前面



右側面

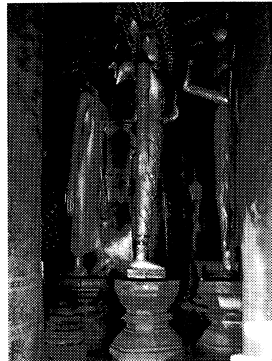
1-7-f. Don't walk "Som-khouan" style(Ham-sam)

遊行像だが、歩行状態でない。Ham-sam とも呼ばれる。(13-45) ap71

Som-khouan は宝冠仏の意である。Rattana[2000]-p74



前面



右側面

1-7-g. Don't walk standard style(Ham-sam)

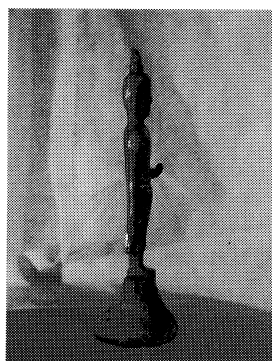
遊行像だが、歩行状態ではないもの。ハムサムとも呼ばれる。

(13-72) Rattana[2000]-p71

Som-khouan は宝冠仏の意である。 Rattana[2000]-p74



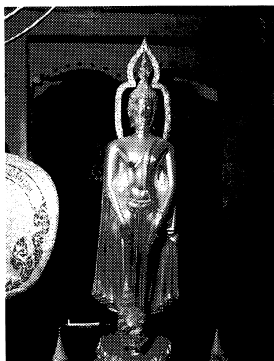
前面



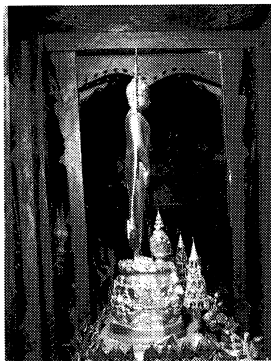
右側面

1-8. Hanpun

立像。調査ではこの1体のみの確認。(2-110)



前面



右側面

2坐像

2-1. Sana-man

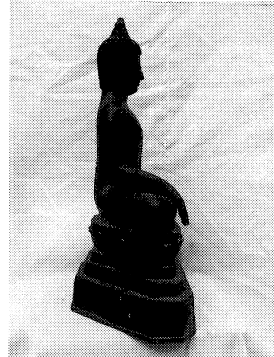
2-1-a. Standard style

半跏趺坐の坐像である。(20-153) Rattana[2000]p40

印相は降魔印（接地印）。 Rattana[2000]p42



前面

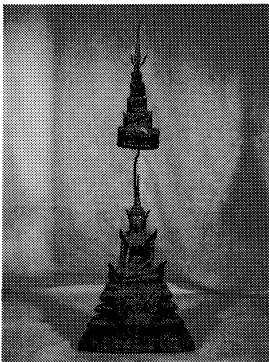


右側面

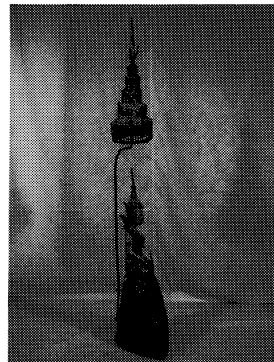
2-1-b. Crowned “Som-khouan” style

半跏趺坐の坐像である。(7-50) Rattana[2000]p40

Som-khouan は宝冠仏の意である。 Rattana[2000]p74

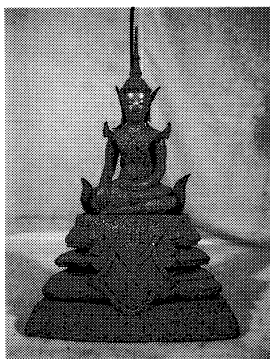


前面

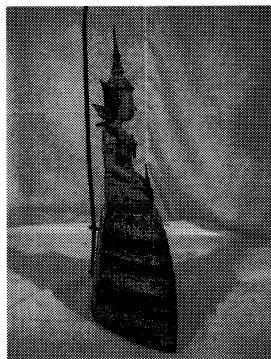


右側面

Som-khouan（拡大写真）



前面



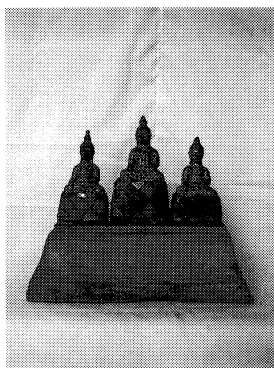
右側面

2-1-c. Pa-mou

半跏趺坐の坐像である。(19-10)

印相は降魔印（接地印）。

同じ台座に複数の仏像が並ぶものを“Pa-mou”という。



前面

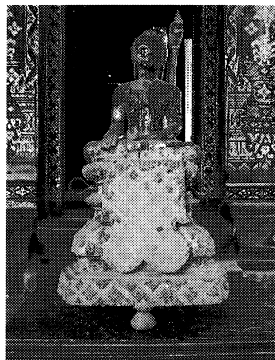


右側面

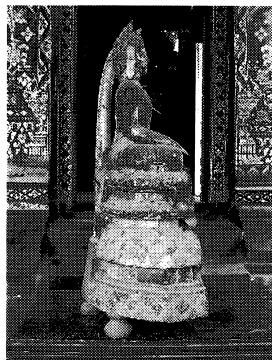
2-1-d. Nagua style “Pang-nak-Pock”

Nagua を光背に持つ。本件は“Pang-nak-Pock”と呼ばれていた。(2-93)

Rattana[2000]p261



前面



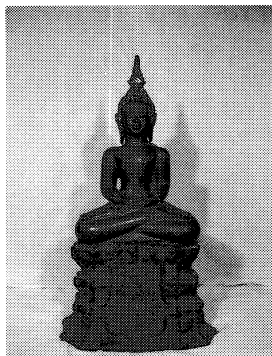
右側面

2-2. Sa-ma-thi

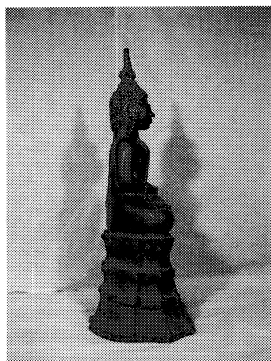
2-2-a. Standard style

結跏趺坐の坐像である。(7-11) Rattana[2000]-p40

印相は禪定印。Rattana[2000]-p42



前面



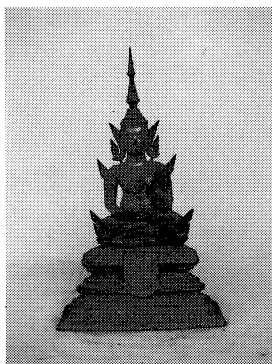
右側面

2-2-b. Crowned “Som-khouan” style

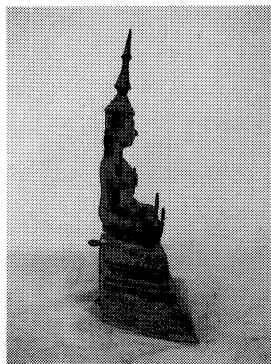
半跏趺坐の坐像である。(8-13) Rattana[2000]-p40

印相は禪定印。Rattana[2000]-p42

“Som-khouan” とは宝冠仏の意である。Rattana[2000]-p66



前面



右側面

2-2-c. “Pa-mou” style

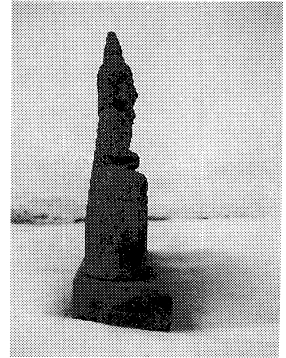
半跏趺坐の坐像である。(5-9) Rattana[2000]p40

印相は禅定印。 Rattana[2000]p42

同じ台座に複数の仏像が並ぶものを“Pa-mou” という。



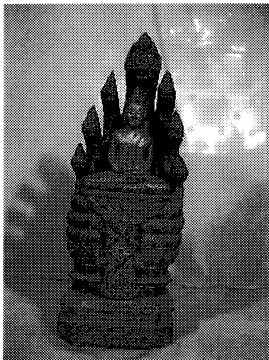
前面



右側面

2-2-d. Nagua style

Nagua を光背に持つ。(7-80) Rattana[2000]p343



前面

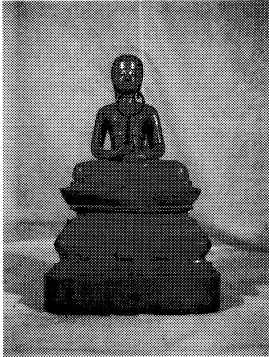


右側面

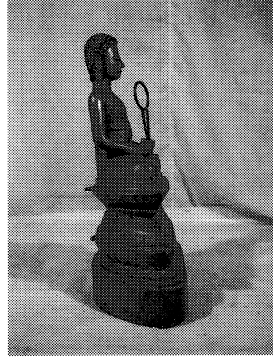
2-3. Ou-Bath

2-3-a. Standard style

比丘坐像。(7-47) Rattana[2000]p318



前面



右側面

2-3-b. Sana-man and Som-khouan style

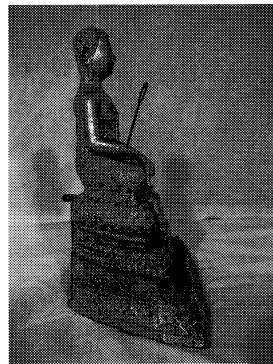
印相は降魔印（接地印）。(7-3) Rattana[2000]p42

ソンクアン（宝冠仏）同様、装飾された台座及び衣着用の比丘坐像である。

Rattana[2000]p319



前面



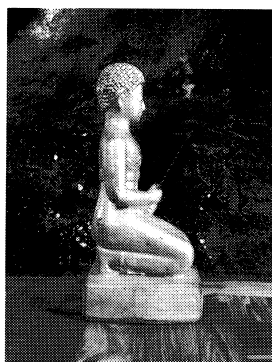
右側面

2-3c “Ma-rai” style 1

比丘坐像。2-4 Ma-rai が環状の持物を有するもの。但し合掌印ではない。
(17-14)



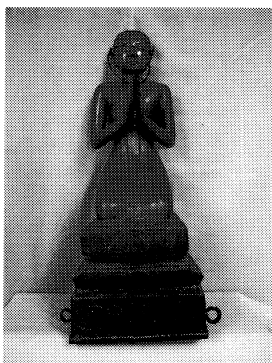
前面



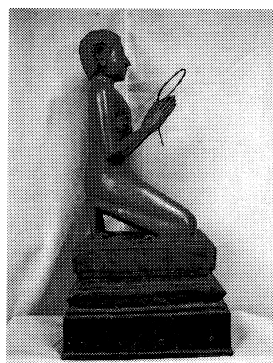
右側面

2-3-d. “Ma-rai” style 2

合掌印をとる比丘。2-4 Ma-rai との違いは持物の有無のみである。(2-138)
Rattana[2000]p45



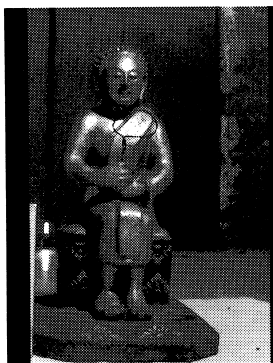
前面



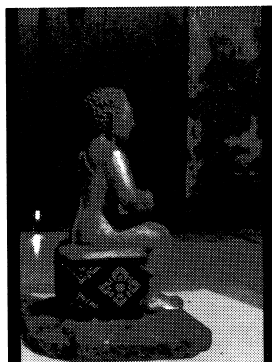
右側面

2-3-e. Seated in a chair style

椅子に座った比丘像である。(13-18)



前面



右側面

2-3-f. Seated in a chair & Both hands with stick style

椅子に座った比丘像。両手で持物を持つタイプ。(13-23)



前面



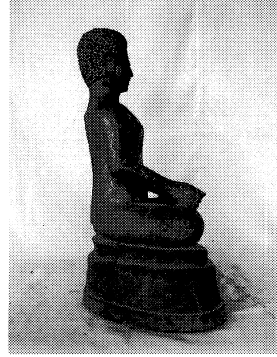
右側面

2-3-g. Both hands with stick style

半跏趺坐の比丘坐像。持物を両手で持つタイプである。(28-24)



前面

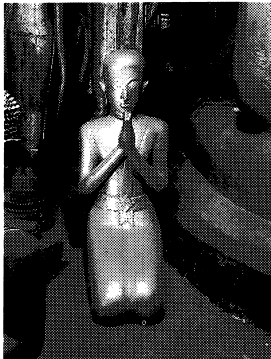


右側面

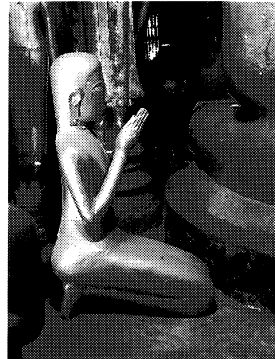
2-4. Marai

合掌印をとる比丘坐像。2-3 Ou-Bath に見られるような持物はない。

(13-50) Rattana[2000]p45



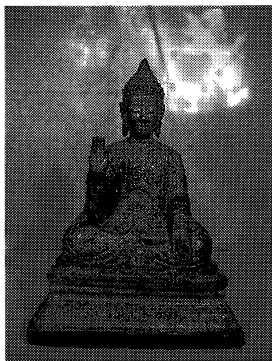
前面



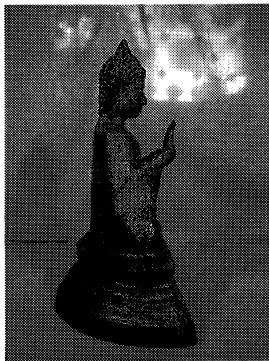
右側面

2-5. Thed-sa-naa

坐像。(7-81) Rattana[2000]-p189



前面

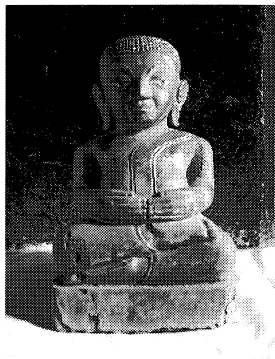


右側面

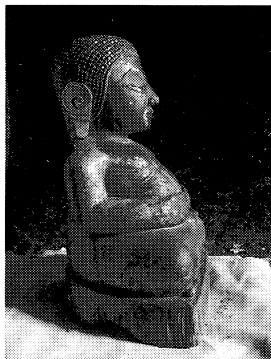
2-6. Pha-ka-chyai

2-6.a. Standard style

肥満体の比丘坐像。(17-49) Rattana[2000]-p321



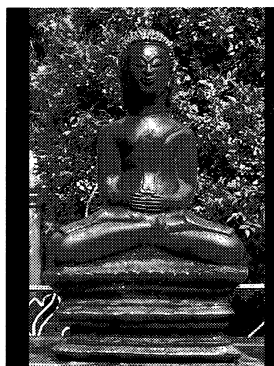
前面



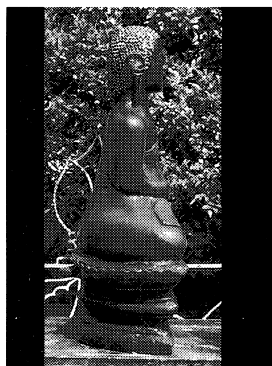
右側面

2-6.b. Standard style 2

肥満体の比丘坐像。結跏趺坐。(2-130) Rattana[2000]-p321



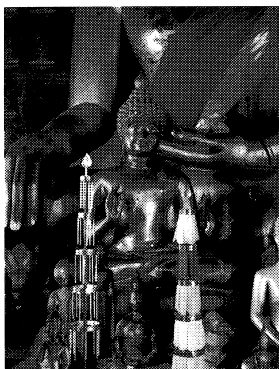
前面



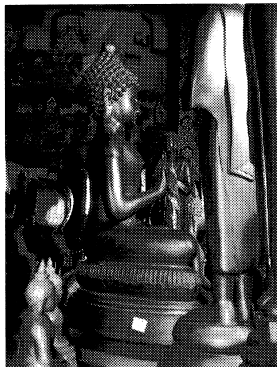
右側面

2-7. Thesanan

坐像。(18-5)



前面

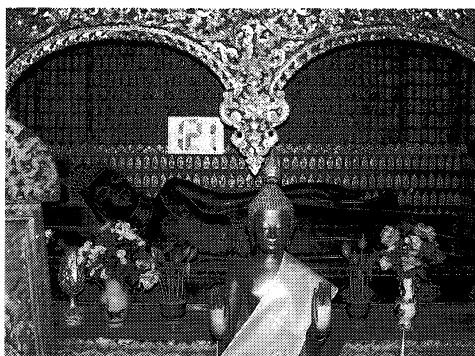


右側面

3.涅槃像

3-1. Saynhat

涅槃像。(2-121) Rattana[2000]-p44,67



前面

4.その他

4-1. Lama-nha-naa

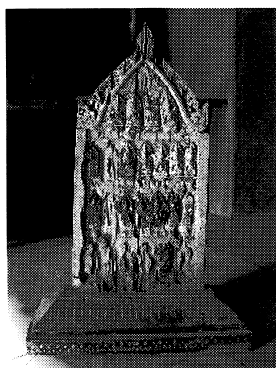
Lamayana 物語を表した大型の衝立。(20-1)



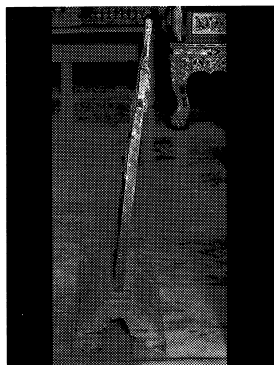
前面

4-2. Pha-bott

千体仏を表した衝立。(2-1) Rattana[2000]・p309



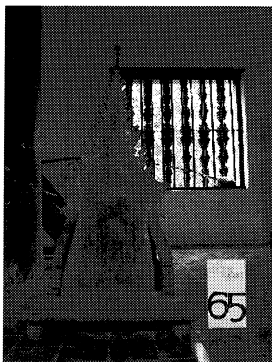
前面



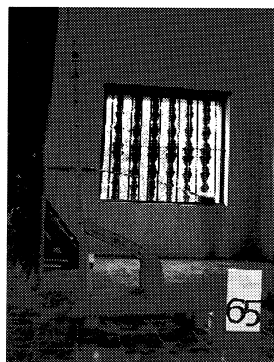
右側面

4-3. Kia

高位の僧が座る椅子と考えられる。(20-65) Rattana[2000]-p366



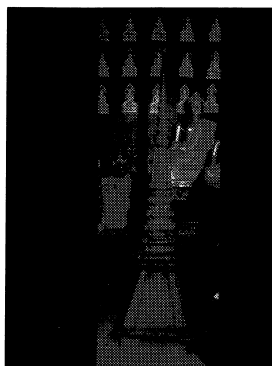
前面



右側面

4-4. Che-dii

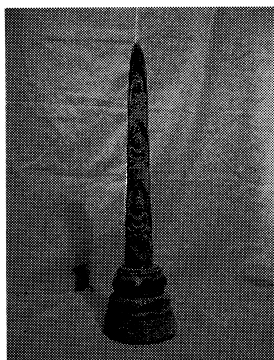
仏塔。(10-6) Lopet[2000]-p124.125.162



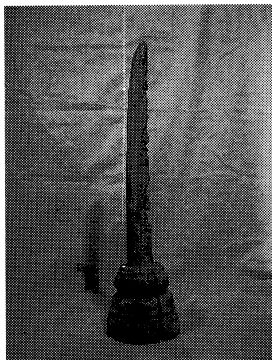
前面

4-5. Gaa-saang

象の牙を模し、複数の仏像が彫刻されている。(20-107)



前面



右側面

4-6. Thepphanom

神像。合掌印をとっている。(18-11) Rattana[2000]-p334



前面



右側面

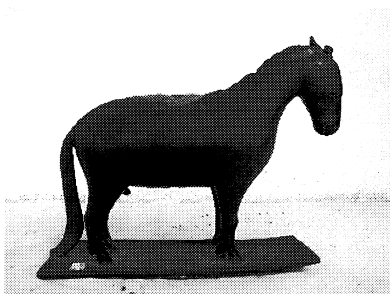
4-7. Animal

4-7-a. マ

馬。(8-23) Rattana[2000]-p361



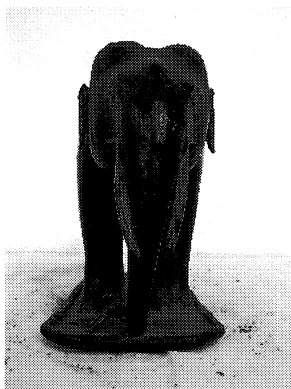
前面



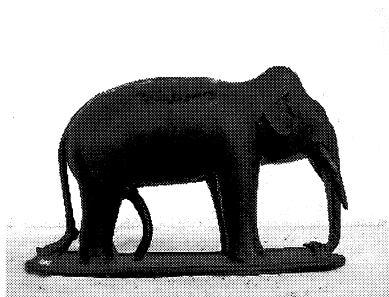
右側面

4-7-b. Saang

象。(8-24) Rattana[2000]-p361



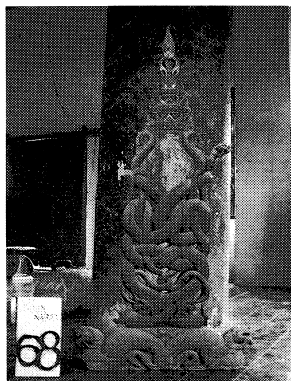
前面



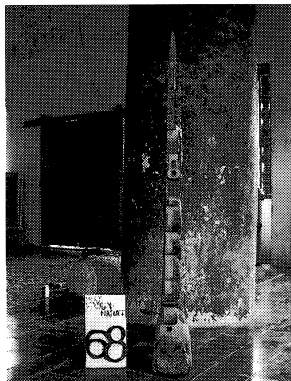
右側面

4-8. Hao-Tiang

ナーガを表した衝立もしくは椅子の背と考えられる。（20-68）



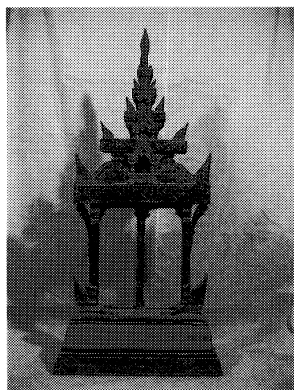
前面



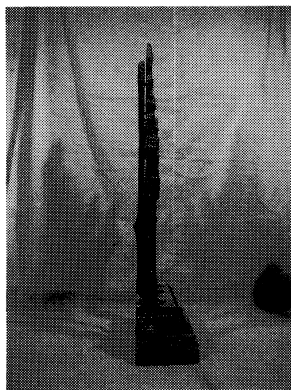
右側面

4-9. Sounpa-toukhonh

門を表していると考えられる。台座部分に遊行像と思われる仏像の両足首のみが残存している。（20-145）



前面



右側面

別項① Riira 詳細 一覧 29 体

寺 番	数	個番	形体番	形 体 名 称	特徴／足	特徴／手
2	4	41	1-7-b	Kho-Fonh	左足上がり	両手揃い
		43	1-7-b	Kho-Fonh	左足上がり	両手揃い
		97	1-7-b	Kho-Fonh	左足上がり	両手揃い
		98	1-7-e	Standard 2	左足上がり	右手上げ
6	1	4	1-7-g	Ham-sam	両足揃え	右手上げ
7	7	10	1-7-b	Kho-Fonh	右足上がり	両手揃い
		22	1-7-a	Standard	右足上がり	左手上げ
		28	1-7-b	Kho-Fonh	左足上がり	両手揃い
		35	1-7-e	Standard 2	左足上がり	右手上げ
		41	1-7-e	Standard 2	左足上がり	右手上げ
		90	1-7-g	Ham-sam	両足揃い	右手上げ
		119	1-7-g	Ham-sam	両足揃い	右手上げ
10	1	23	1-7-e	Standard 2	左足上がり	右手上げ
13	9	44	1-7-c	Kho-Fonh・ Som-khouan	右足上がり	両手揃い
		46	1-7-d	Standard・ Som-khouan	右足上がり	左手上げ
		54	1-7-e	Standard 2	左足上がり	右手上げ
		63	1-7-d	Standard・ Som-khouan	左足上がり	右手上げ
		64	1-7-f	Ham-sam・ Som-khouan	両足揃い	右手上げ
		66	1-7-c	Kho-Fonh・ Som-khouan	左足上がり	両手揃い
		45	1-7-f	Ham-sam・ Som-khouan	両足揃い	左手上げ
		60	1-7-g	Ham-sam	両足揃い	右手上げ
		72	1-7-g	Ham-sam	両足揃い	左手上げ
		18	1-7-g	Ham-sam	両足揃い	右手上げ
15	2	36	1-7-c	Kho-Fonh・ Som-khouan	右足上がり	両手揃い
		20	1-7-g	Ham-sam	両足揃い	右手上げ
18	2	57	1-7-b	Kho-Fonh	左足上がり	両手揃い
		147	1-7-e	Standard 2	左足上がり	右手上げ
20	2	148	1-7-a	Standard	右足上がり	左手上げ
		34	1-7-g	Ham-sam	両足揃い	右手上げ

ラオス仏像分類に関する報告（池上・池田）

1-7-a	Standard Style	2 体
1-7-b	Kho-Fonh Style	6 体
1-7-c	Kho-Fonh・Som-khouan Style	3 体
1-7-d	Standard・Som-khouan	2 体
1-7-e	Standard・Style 2	6 体
1-7-f	Ham-sam・Som-khouan・Style	2 体
1-7-g	Ham-sam・Style	8 体

合計 29 体

別項② Ou-Bath 詳細 一覧 19 体

寺番	数	個番	形体番	形 体 名 称	備 考
2	1	138	2-3- d	Ma-rai 2	
7	2	3	2-3- b	Sana-man・Som-khouan	
		47	2-3- a	Standard	
9	2	35	2-3- g	Both hands	
		38	2-3- d	Ma-rai 2	
11	1	6	2-3- a	Standard	
12	1	33	2-3- a	Standard	
13	4	18	2-3- e	Seated in a chair	
		22	2-3- e	Seated in a chair	
		23	2-3- f	Seated in a chair・Both hands	
		32	2-3- e	Seated in a chair	
17	1	14	2-3- c	Ma-rai 1	
18	3	24	2-3- c	Ma-rai 1	
		26	2-3- c	Ma-rai 1	
		30	2-3- c	Ma-rai 1	
20	1	99	2-3- d	Ma-rai 2	
22	1	8	2-3- g	Both hands	結跏趺坐
28	2	24	2-3- g	Both hands	
		26	2-3- d	Ma-rai 2	

2-3-a	Standard	3 体
2-3-b	Sana-man・Som-khouan	1 体
2-3-c	Ma-rai 1（正座）	4 体
2-3-d	Ma-rai 2（正座・合掌）	4 体
2-3-e	Seated in a chair（椅子）	3 体
2-3-f	Seated in a chair・Both hands（椅子・両手）	1 体
2-3-g	Both hands（両手）	3 体

合計 19 体

寺院調査結果表

No	寺院名	略号	調査年月	調査回数	仏像数	所在	備考
1	Vat Pakkhane	PAK	2003 年 9 月	5	5	街	
2	Vat Xieng thong	XIE-T	2002 年 2 月	3	134	街	
3	Vat Khili	KHI	2004 年 9 月	6	9	街	
			2003 年 9 月	5	16		
4	Vat Si boun heuung	SIH	2004 年 9 月	6	14	街	
5	Vat Sirimoung khouné	SIR	2005 年 2 月	7	3	街	
			2004 年 9 月	6	15		
6	Vat Sop	SOP	2003 年 9 月	5	11	街	
7	Vat Sene	VSS	2004 年 9 月	6	128	街	
8	Vat Nong	NON	2003 年 9 月	5	24	街	
9	Vat Si phouthabath	SIP	2002 年 9 月	4	72	街	
10	Vat Paphay	POP	2002 年 9 月	4	19	街	
11	Vat Choum khong	CHO	2004 年 9 月	6	5	街	
			2003 年 9 月	5	22		
12	Vat Xieng mouane	XIE-M	2002 年 9 月	4	23	街	
13	Vat May	MAY	2003 年 9 月	5	19	街	
			2002 年 9 月	4	107		
14	Vat Phonexay	PHO	2003 年 9 月	5	11	街	
15	Vat Ho xieng	HOX	2003 年 9 月	5	36	街	
16	Vat That noi	THA	2003 年 9 月	5	6	街	
17	Vat That louang	THA-L	2002 年 9 月	4	49	街	
18	Vat Manorum	MAN	2002 年 9 月	4	57	街	
19	Vat Meunna	VMN	2004 年 9 月	6	18	街	
20	Vat Vixoun	VIX	2001 年 9 月	2	91	街	回廊
21	Vat Aham	AHA	2005 年 2 月	7	64	街	須弥 壇上
			2003 年 9 月	5	0		現状 写真

ラオス仏像分類に関する報告（池上・池田）

22	Vat Aphay	APH	2003 年 9 月	5	25	街	
23	Vat Tham phousi	TPHS	2004 年 9 月	6	10	街	
24	Vat Pahuak	PAHU	2005 年 2 月	7	0	対岸	現状写真
25	Vat Chomsi	CHOM	2002 年 3 月	3	6	街	
26	Vat Phabathtay	PHAB	2003 年 9 月	5	14	街	
27	Vat Salatham	SAL	2005 年 2 月	7	0	対岸	現状写真
28	Vat Xiengnhune	VXNH	2004 年 9 月	6	92	対岸	
29	Vat Chomphet	CHO-P	2005 年 2 月	7	0	対岸	現状写真
30	Vat Longkhoun	LON	2005 年 2 月	7	14	対岸	
31	Vat Tham xiengmene	THX-X	2005 年 2 月	7	7	対岸	
32	Vat Phone saat	PHO-S	2005 年 2 月	7	2	街	
33	Vat Phanelouang	VPHL	2004 年 9 月	6	24	街	
34	Vat Taohay	VTH	2004 年 9 月	6	22	街	
35	Vat Hat siao	HAT	2005 年 2 月	7	0	対岸	現状写真
					1174		

注…表中の Vat は寺院のことである。

仏像調査カード見本

第 回ラオス・ルアンパバーン仏像調査カード

調査日 年 月 日 記入者 No.

寺 院 名							
仏 像 名							
年 代		詳細不明					
寸 法	仏 像	高さ (H)		台 座	高さ (H)		
		横幅 (W)			横幅 (W)		
		奥行 (D)			奥行 (D)		
		重量 (Kg)			重量 (Kg)		
所 見	仏 像	材 質	木 金属 石 () 他 ()				
		下 地	漆(黒・赤) ナムハーン ナムキャン カモック ベンキ 他 ()				
		漆 箔	金(銅・銀) 銀 黄銅 他 ()				
		彩 色	ベンキ ベンガラ 他 ()				
		目の材質	カモック 七宝 貝 金属 () 他 ()				
		象 嵌	部位・・・頭部 右臂 左臂 胴体 裳 装飾 () 他 ()				
	材質・・・七宝 ガラス 貝 他 ()						
	台 座	形 状	多角 (角) 半月型 多重 (層) 円柱 他 ()				
		材 質	木 金属 () 石 ガラス セメント 他 ()				
		下 地	漆(黒・赤) ナムハーン ナムキャン ベンガラ 他 ()				
		漆 箔	金(銅・銀) 銀 黄銅 他 ()				
		彩 色	ベンキ () ベンガラ 他 ()				
		象 嵌	七宝 ガラス 貝 他 ()				
	以前の修復 (有・無)						
破損状況 像造 欠損 A 欠落 B 亀裂 C 虫害 D 下地・彩色 剥離 E 汚れ F 変色 G							
備考							

参考文献

Rattana[2000]…Ed. H.Rattavong & others, *TREASURES OF RUANG PRABANG*, Institute of Cultural Research, 2000.
… (166-196P)

Stratton[2004]…Carol Stratton, *Buddhist Sculpture of Northern Thailand*, Silkworm Books,Thailand,2004. …b (166-196P)

Lopet[2000]…Samkiart Lopetcharat, *Lao Buddha-The Image and Its History*, Siam International Book Company Ltd,Thailand, 2000.

ラオス仏像分類に関する報告 (池上・池田)

[illegible][illegible][illegible]

(iii) \mathcal{C}_1 and \mathcal{C}_2 are disjoint, and $\mathcal{C}_1 \cup \mathcal{C}_2 = \mathcal{C}$.
 (iv) \mathcal{C}_1 and \mathcal{C}_2 are disjoint, and $\mathcal{C}_1 \cup \mathcal{C}_2 \neq \mathcal{C}$.